

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月10 日

事業所名 放課後等デイサービス ひまわり

◎ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。 職員数 7名 回答7名 調査機関 令和6年3月10日 ~3月31日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			移転も含め、一人ひとりの学習や個別支援が確保できるように環境を整えており、落ち着いて活動が行えるよう工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	7			管理者兼児童指導員・児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員(強度行動障害支援者)介護福祉士を含む7名に加え言語聴覚士が月2回支援にあたっています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	2		1階室内は完全バリアフリーではありませんが、現在バリアフリーを必要とする児童は居ない。トイレ等、踏み台を設置するなどの配慮を行っています。駐車場から玄関まで2段の階段があり、今後改修
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			PDCAサイクルを要いて業務を行っており、毎日のミーティング時、月1回のミーティング時にスタッフと共有しながら目標設定や振り返りを全職員が意識して取り組んでいます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			年に1回保護者向け評価表の活用により保護者等の意見を職員間で周知・把握し、業務改善に向けて日々話し合いながら努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		ホームページには公開していませんが、保護者に配布・事業所内掲示を行っています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	2	第三者による評価については、必要性を実感しておりますが、実施には至っておりません。担当相談員や他の関係機関の意見を尋ねたり、評価頂きながら、業務改善に繋げていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			オンライン研修を事業所内で多く持つようにしている他に、年間スケジュールにて研修予定計画をたて、定期的を実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			保護者様の連携を図り、自宅内での様子やお子さまのニーズや課題を確認し、苦手な部分の支援が行えるよう、計画を作成する上で管理者・児童発達支援管理責任者を筆頭に個別支援計画を作成し職員との話し合いを行っています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		事業所で作成しているアセスメントシートや医療機関での検査結果を保護者様に頂き、管理者・児童発達支援管理責任者・児童指導員・言語聴覚士を中心に体系化に努めています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			季節行事や誕生会などは担当を決め支援に偏りがないように努めています。ミーティング内で各活動担当の職員の素案に対して意見交換を行い、色々な経験が持てるように活動プログラムを作成している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			季節ごとの行事以外でも、児童の意見や保護者様の意見も踏まえながら、固定化しないようプログラミングし実施しています。また児童の下刻時間も考慮しプログラム組み込んでいます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			平日・学校休業日で活動プログラムを変えている。平日は短時間で出来る活動を行い、学校休業日は体験活動や外出レク等を、活動担当職員と児童指導員が協働し、課題を設定しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		児童の状況を踏まえながら一人ひとりに応じて時間設定等を行い、無理ない範囲で取り組めるようにしている。また、個別以外でも、少人数・小集団など活動や取り組みを通して療育支援が行えるように取り組んでいる。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			全職員間で確認と打ち合わせを行っている他に、申し送り漏れがおきないように、ホワイトボードの確認・申し送りノートを活用しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2		送迎業務の為、職員全体での振り返りの時間確保が難しく、緊急以外は申し送りノートや当日の可能な範囲での振り返りを行い、翌日のミーティングにて話し合いを実施している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			日々の支援に関しては記録を徹底しています。検証や改善等問題が生じた際には直ぐに対応できるよう取り組んでいます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			個別支援や児童指導員等から得た情報を元に、個々の状況を確認し、振り返りを行っている他に、児発管が定期的にモニタリングを行い、必要な見直しを行っています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	2		日常生活活動・学習・創作・余暇活動等を組み合わせながら支援を行っています。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1		相談支援事業所の担当者等が来所され、児童の様子を確認していく形で会議が進められており、管理者・児発管・児童指導員が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			定期的に学校に連絡を行い、下校時間や変更等の確認・連絡調整を行っている他に、児童と保護者との学校での話し合いに参加しています。トラブル発生や体調不良時は職員が速やかに管理者・児発管に報告し、対応・調整を行っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	1		現在、医療的ケアが必要な対象児はおられませんが、インテーク時やサポートブックを用いて緊急時の主治医の連絡先等共有しています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			相談員さんを通じて、就学前に在園していた保育所や幼稚園、保健師より情報共有が行えるように努めています。また児童発達支援事業所からの助言を参考に理解を深めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	3		現状では発生していませんが、対象利用児がサービス移行となる際は、就労系サービスに対して、これまでの支援経過の情報提供を行い、併せて、相談支援事業所に対しても情報提供を行っていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3		必要に応じ電話や訪問で助言を頂いたりしています。外部研修は実施に至っていない状況ですが、今後はリモート等を活用し実施していく予定となっています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	1	1	外出レクリエーションで地域の行事に参加したり、公園に出かけた際に事業所利用以外の他児と交流を図っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	5		ご案内時は積極的に参加に努めていきます。オンラインで参加できると参加しやすいと感じます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			連絡帳や電話・送迎時等で日々の状況を伝えていきます。またご家庭での様子を伺い、児童の課題について共通理解に努めています。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2		事業所で個別に行っている支援内容や児童の変化を伝え、自宅でも共有して頂けるように取り組む他、自宅で行っていることが事業所でも行えるように取り入れて支援しています。保護者の理解と協力が必要ですので、保護者様の状況に応じて取り組むようにしています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			契約時及び重要事項の変更時に管理者・児童発達支援管理責任者が個別に説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			営業時間内ではありますが、気軽に相談が行えるよう、電話以外にもLine等を活用し対応しています。相談のないように応じ、出来る限りの助言と支援を行えるように取り組んでいます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2		親子ふれあい会を開催し、保護者様同士の関係の構築や連携に取り組んでいます。まだ回数が少ない為、回数が増えるように努めていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			苦情対応について契約の中で体制を説明している他、ご意見箱を設置しており、苦情発生時は管理者が窓口となり、対応しています。解決策は管理者を責任者として設置し、さらに法人内で検討会を実施し、保護者に回答をおこなうように努めています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			毎月、活動予定表を配布、お知らせや連絡はプリントを作成し配布しています。
	35	個人情報に十分注意している	7			個人情報取り扱いの同意書に沿った運用を行っています。また、サービス利用中の個人情報は鍵付きのキャビネットに保管したり、個々の写真を保護者へお送りする際に他児童が特定されないようにモザイクをかける等配慮を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			情報伝達は個別対応を心がけています。聴覚や視覚情報等、児童や保護者に十分に疎通が行えるように配慮を行っています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	2	地域活動や地域での行事に関しては長期休みや土曜日等に参加したり、活用する計画ですが、本年度は地域住民を招待する事はできていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1	緊急時等でもすぐに連絡が行えるように児童の連絡リストを作成しています。また、全職員がマニュアルを周知徹底していますが、保護者への周知までには至っていない部分があり、お手紙等で配布するなど工夫に努めます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	地域の警察署の生活安全課にも協力いただき、訓練を行っています。年2回の避難訓練と防犯訓練を役割を決め実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		虐待に対するアンケートや心理等の分析シートを活用した研修を行っている。虐待防止研修は、入職時と事業所の定期的な研修として年3回実施しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2	身体拘束の実施はなし。やむを得ず身体拘束を行う場合は、管理者は法人内の検討会議の結果、個別で保護者面談をおこない、方針について説明し、同意をいただく事になっている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	おやつ提供。利用開始前にアレルギーについての文書での聞き取りを保護者に対して行い、必要児に対して医師の指示書を頂き、個別対応を行っています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	報告書の作成・共有に努めているが、小さなケースは記載していない事も多く、十分でない為、ヒヤリハットの記載から今後分析等必要と考えています。